

85 明治10年11月21日 菊池長閑宛

第十二号⁽¹²⁾ 十一月廿一日 (長閑注記)

第八号達す内乱愈平きたる由一同大慶の事と云ふへし第五号未
タ達せざる由私の心覚の違ひかも不知度々郵便印紙を遣したる
礼迎或子供より諸国の郵便印紙税印紙等貰たれハ阿すみ様に贈
りたし札の裏に何も書てない分ハ合衆国の郵便札と知へし来る
廿九日ハ「サンクスギヴキング、デー」即ち礼拝日とも訳すへ
き日なり当国の風にて大統領一年の中一日を撰ひ国中の人民を
して平和康福を享たる礼として天を拝せしむるなり此日ハ常に
十一月の末に来るなり是ハ人民何れも守らねは成ぬ沙汰と云ふ
訳てハなし只大統領より我国ハ斯天祐を享たれハ各方天を礼拝

したら宜らふとの諭又ハ心付なり州に寄り州の礼拝日ハ大統領
の撰たる日と違ふ所もあり然し此日ハ國中諸役所学校商店に至
迄尽休暇にて朋友親戚寄合て祝ふなり是ハ合衆国の国風にて外
にハ無様に覚ゆ勿論礼拝日と云ふ事ハ^(抹消)諸^(抹消)英国杯にも有共國中
挙ての礼拝日と云ふものハ他国に見得ぬなり当府にてハ最早大
分の寒気なり初雪の降たる事ハ当月の初なりし然し時々ハ大想
暖^(抹消)温^(抹消)なり日あり土人ハ名て「インデアン、サムマル」^夏インデア
歐人来りし前に^当人の夏と云ふ一体気候ハ至て不順なる所なり
國に居たる人種

御尊父様

武夫

(長閑注記)

「明治十一戊寅一月十四日達シ日数五十五日

三月七日此方二号ヲ以テ返事但同十一日郵便へ出し」